

第7回調査
7月1日現在の就職活動状況
1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は70.8%。先月調査(6月1日現在)よりも8.5ポイント伸び、7割の大台に乗った。リーマン・ショック直後の就職戦線であった2010年卒者の数字(69.6%)を上回り、数年続いた落ち込みに底打ち感がはっきり表れている。

昨年は東日本大震災を受け、大手製造業の一部が選考開始を6月以降にずらしたため、理系学生の内定の遅さが目立ったが、今期は文系理系とも順調に内定が出ており、前年同期を上回る。6月以降理系女子の内定率が伸びているが、内定先を見てみると製造業だけでなく、金融、流通、サービス業など多岐にわたっていた。業種や職種の選択肢を広げたことが、内定率を押し上げたようだ。

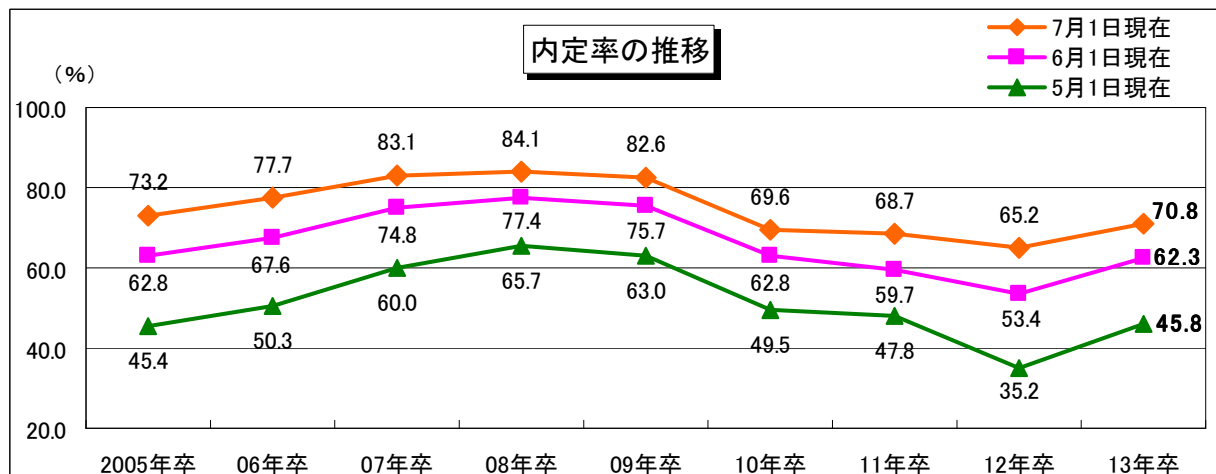
一方で、内定取得学生のうち就職活動を終了したのは81.3%にとどまり、モニター全体を分母にしてみると(次ページ円グラフ)57.5%となる。平均的な就活生よりも1~2割程度内定率が高いと言われる就職活動モニターでも、この時点で約4割が進路を決めておらず、就職戦線は今期も長期化すると予想される。

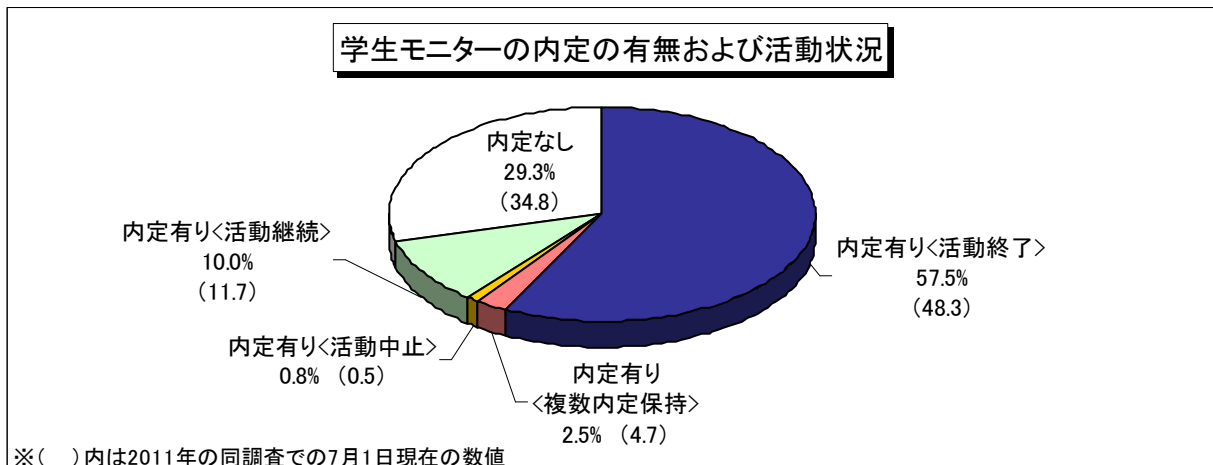
7月1日現在の内定の状況

*「内定」には、内々定を含む (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立	
内定有り	70.8 (65.2)	71.7 (66.1)	67.5 (67.3)	71.1 (64.5)	75.2 (58.3)	74.4 (74.1)	67.8 (58.2)	
内定なし	29.3 (34.8)	28.3 (33.9)	32.5 (32.7)	28.9 (35.5)	24.8 (41.7)	25.6 (25.9)	32.2 (41.8)	
内定社数(平均/社)	1.9 (1.8)	2.0 (2.0)	1.8 (1.7)	1.8 (1.8)	1.6 (1.5)	1.9 (1.8)	1.9 (1.9)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	81.3 (74.2)	78.4 (66.8)	85.2 (73.0)	80.7 (80.8)	83.0 (85.7)	84.7 (78.7)	78.2 (69.6)
	活動は終了したが複数内定保持	3.5 (7.2)	5.0 (10.2)	2.8 (5.4)	2.5 (6.2)	3.4 (3.2)	3.3 (6.4)	3.8 (7.9)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.1 (0.7)	0.7 (1.2)	0.9 (0.5)	2.0 (0.5)	0.0 (0.0)	1.0 (0.6)	1.1 (0.9)
	就職活動継続	14.1 (18.0)	15.9 (21.7)	11.1 (21.1)	14.8 (12.4)	13.6 (11.1)	11.0 (14.3)	16.9 (21.6)

※()内は2011年の同調査での7月1日現在の数値





2. 7月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

7月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で89.1社。先月調査までと同様、前年同期より約1割減で推移している。セミナー参加やエントリーシート提出、選考試験受験数などについては、前年を若干下回るものの大きな変化は見られない。2カ月間短くなったぶん、密度の濃い就職活動が展開されている。

「OB・OG訪問」について、ルートごとに人数（何人を訪問したか）を尋ねたが、最も多かったのは「学校関係ルート」で2.4人。話題を集めた「ソー活」を実践してOB・OG訪問をするケースは稀で、「ソーシャルメディアルート」は0.3人にとどまった。

7月1日現在の就職活動の状況

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
エントリー社数 (社)	89.1	97.6	100.3	97.2	73.0	73.6	73.3	101.7
今後のエントリー予定社数 (社)	6.3	6.7	6.7	7.5	5.6	3.8	4.1	7.8
セミナー・説明会参加社数 (社)	56.4	58.4	62.6	60.7	49.0	44.3	52.2	59.8
企業単独開催のもの (社)	26.1	28.3	29.6	28.6	21.3	20.9	22.4	29.1
合同開催のもの (社)	17.5	18.2	18.9	18.2	16.1	15.1	15.9	18.8
学内開催のもの (社)	12.8	11.9	14.1	13.9	11.6	8.4	13.9	11.9
OB・OG訪問人数 (人)	5.2	5.7	6.2	5.2	4.4	3.3	4.8	5.6
人事部ルート (人)	1.3	1.1	1.5	1.1	1.6	0.4	1.3	1.3
学校関係ルート (人)	2.4	1.6	2.8	2.7	2.0	1.1	2.4	2.4
ソーシャルメディアルート (人)	0.3	-	0.3	0.1	0.3	0.4	0.3	0.3
それ以外のルート (人)	1.2	3.0	1.6	1.3	0.5	1.4	0.8	1.6
エントリーシート提出社数 (社)	23.6	24.3	26.3	25.4	20.1	19.0	21.8	25.0
筆記・WEB試験受験社数 (社)	16.0	16.4	18.3	17.3	13.3	11.7	15.4	16.4
面接試験受験社数 (社)	11.4	11.9	13.0	12.4	9.5	8.1	11.0	11.7
集団討論受験社数 (社)	4.8	5.1	5.8	5.1	3.8	3.4	4.1	5.4
工場見学社数 (社)	2.9	2.7	-	-	3.1	2.3	3.2	2.5
研究所見学社数 (社)	2.0	1.9	-	-	2.0	1.8	2.0	1.8

※「今後のエントリー予定社数」は、就職活動継続者のみ回答

3. 就職活動継続者の今後の見通し

内定者も含め7月1日現在で就職活動を継続している学生（モニター全体の39.3%）に、選考中およびこれから受験する予定の企業（持ち駒）の数を聞いた。平均して2.7社と先月調査（3.4社）より0.7社減っており、前年同期（2.9社）と比べても0.2社少ない。就職戦線は事実上の後半戦へと移っているが、この数字を見る限り、持ち駒企業を積極的に増やそうという学生は、そう多くはなさそうだ。活動継続学生のコメントを読むと、就活へのモチベーションの維持が難しいという学生が少なくない。

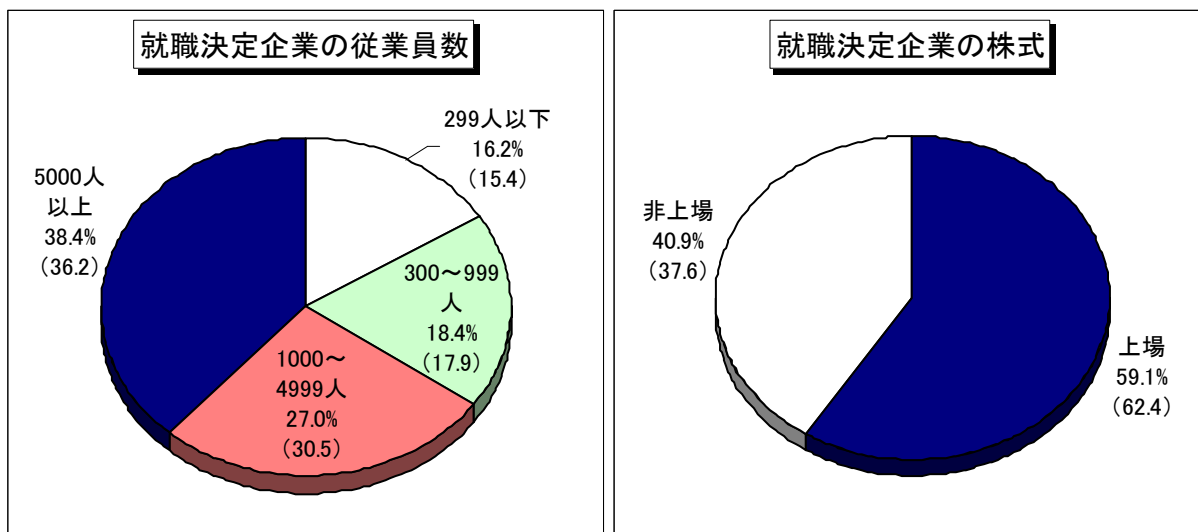
選考進行中および今後受ける予定の企業(持ち駒)社数

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
7月1日現在	2.7	2.9	3.0	2.7	2.2	2.5
6月1日現在	3.4	4.0	3.7	3.7	2.8	3.3
5月1日現在	5.1	6.2	5.3	5.3	4.7	4.8
4月1日現在	8.6	9.6	9.7	9.7	6.9	6.8

(社)

4. 就職決定企業の属性

就職活動終了者（モニター全体の57.5%）に、就職決定企業について聞いた。従業員数1000人以上の大手企業の割合を見てみると、「1000～4999人」「5000人以上」の合計が65.4%となり前年（66.7%）をやや下回る。採用人数の少ない中小企業では、大手の選考が一段落した後に採用活動を本格化するケースも多いため、今後は中小企業の比率はさらに高まっていくと見られる。



※()内は2011年の同調査での7月1日現在の数値

5. 就職決定企業の業界

就職決定企業と、内定を得た業界（内定企業の属する業界）とをそれぞれ多い順に並べてみた。文系・理系ともに、内定を得た業界と、実際に決定した業界の1位は合致しており、文系は「銀行」が、理系は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が最も多い。しかし、内定を得たからといってその業界に進むとも限らず、例えば文系で2位の「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」は、決定業界では4位に下がっている。逆に「マスコミ」は、内定業界では17位と狭き門だが、決定業界では6位に浮上し、決定率の高さが際立っている。一方理系は、文系に比べ専攻分野と受験業界との関連性が強く、内定業界と決定業界に文系ほどの違いは見られない。

文系

理系

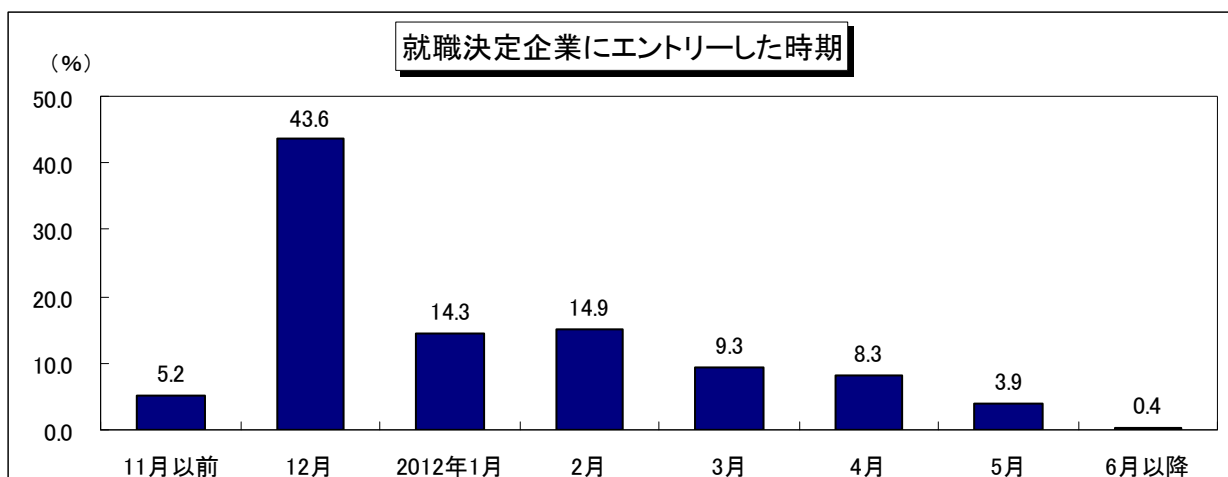
内定を得た企業の業界		%	就職決定企業の業界		%	内定を得た企業の業界		%	就職決定企業の業界		%	
1位	銀行	22.4	1位	銀行	14.5	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.5	
2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.7	2位	保険	7.6	2位	建設・住宅・不動産	18.7	2位	建設・住宅・不動産	9.6	
3位	保険	11.6	3位	運輸・倉庫	7.1	3位	電子・電機	12.7	2位	電子・電機	9.6	
4位	建設・住宅・不動産	11.2	4位	建設・住宅・不動産	5.5		情報・インターネットサービス	12.7		4位	自動車・輸送用機器	7.8
5位	運輸・倉庫	10.3		情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	5.5	5位	機械・プラントエンジニアリング	12.0	5位	医薬品・医療関連・化粧品	7.0	
6位	コンビニエンス・ストア	9.5	6位	情報・インターネットサービス	4.0	6位	医薬品・医療関連・化粧品	9.9		情報・インターネットサービス	7.0	
7位	情報・インターネットサービス	9.1		マスコミ	4.0	7位	自動車・輸送用機器	9.3	7位	機械・プラントエンジニアリング	5.9	
8位	その他サービス	7.0	8位	商社（専門）	3.8	8位	素材・化学	7.8	8位	素材・化学	5.6	
9位	商社（専門）	6.4	9位	通信関連	3.3	9位	運輸・倉庫	7.5	9位	運輸・倉庫	4.8	
	通信関連	6.4	10位	自動車・輸送用機器	2.9	10位	通信関連	6.9	10位	通信関連	3.7	
11位	水産・食品	6.0		コンビニエンス・ストア	2.9	11位	水産・食品	5.7	11位	精密機器・医療用機器	3.3	
12位	自動車・輸送用機器	5.8	その他サービス	2.9	12位	銀行	5.4	銀行		3.3		
13位	証券・投信・投資顧問	5.2	13位	機械・プラントエンジニアリング	2.6	13位	精密機器・医療用機器	4.8	13位	水産・食品	3.0	
14位	信用金庫・労働金庫・信用組合	5.0		信用金庫・労働金庫・信用組合	2.6	14位	その他サービス	4.2	14位	保険	1.9	
15位	電子・電機	4.8	15位	素材・化学	2.4	15位	官公庁・団体	3.6	15位	エネルギー	1.5	
16位	専門店	4.6		電子・電機	2.4	16位	調査・コンサルタント	3.0		専門店	1.5	
17位	教育	4.4		証券・投信・投資顧問	2.4	17位	専門店	2.7		その他サービス	1.5	
	マスコミ	4.4	18位	エネルギー	2.1	18位	コンビニエンス・ストア	2.4	18位	鉄鋼・非鉄・金属製品	1.1	
19位	ホテル・旅行	4.3	19位	印刷・パッケージ	1.7	19位	エネルギー	2.1		商社（総合）	1.1	
20位	素材・化学	3.5		商社（総合）	1.7	19位	保険	2.1		コンビニエンス・ストア	1.1	
				ホテル・旅行	1.7		19位	商社（専門）		2.1	フードサービス	1.1
				教育	1.7			19位		調査・コンサルタント	1.1	
				調査・コンサルタント	1.7							

※「内定を得た企業の業界」は複数回答

※上位20業界を掲載

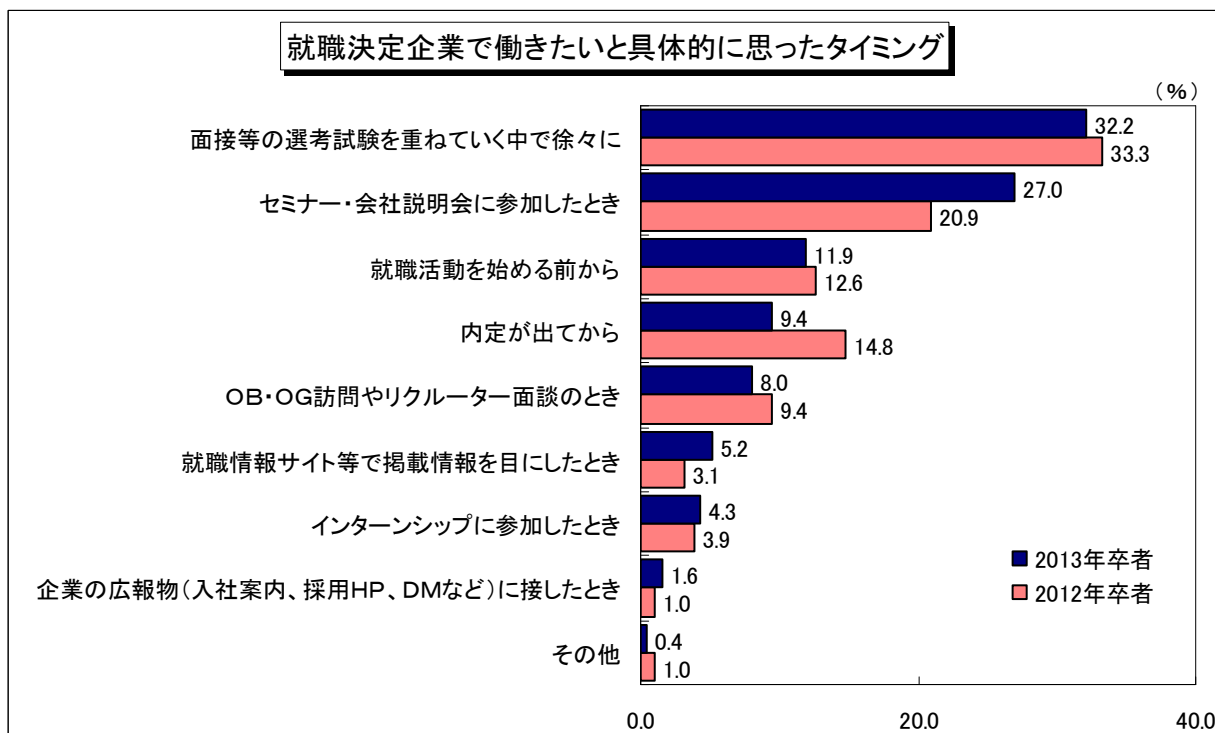
6. 就職決定企業へのエントリー時期

就職決定企業には、いつごろエントリーをしていたのかを聞いた。「12月」が43.6%と圧倒的に多く、就職情報サイトのグランドオープン時期と重なっており、学生が最も精力的にエントリーを行った時期である。就職先の決まった学生の多くは、早期に知った企業を中心に就職活動を展開し、内定に至っている様子がうかがえる。企業としては、早期に動く意欲の高い学生に会う機会を喪失しないためにも、早めの情報公開が望ましいと言える。



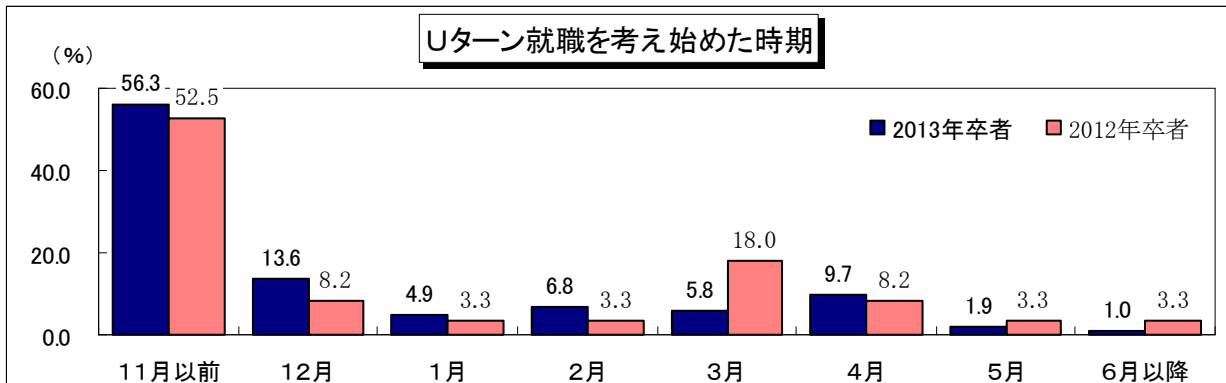
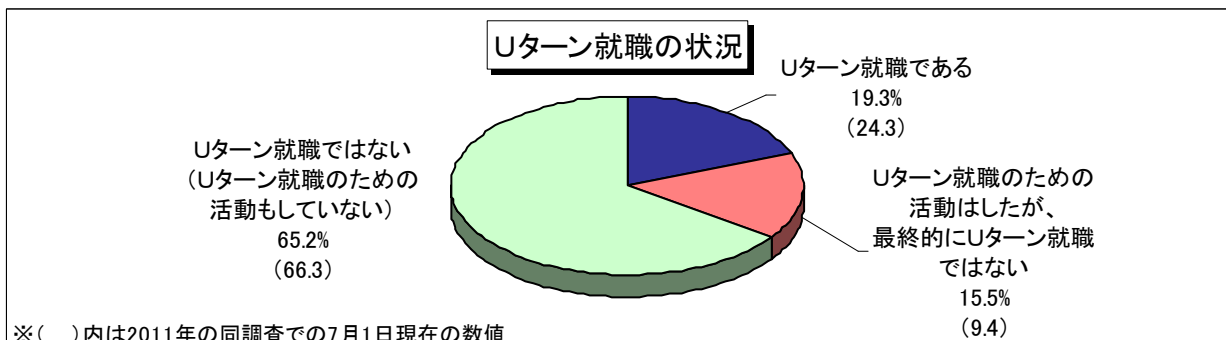
7. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったのはいつか、そのタイミングを聞いたところ、「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」が前年に引き続き最も多く、32.2%と3割にのぼった。次いで「セミナー・会社説明会に参加したとき」が27.0%で続くが、前年（20.9%）より6ポイント以上増えているのが目立つ。この2つは他の項目に大きく差をつけており、セミナーと面接が、いかに学生の入社動機形成の場として果たす役割が大きいかが如実に表れている。



8. Uターン就職の状況

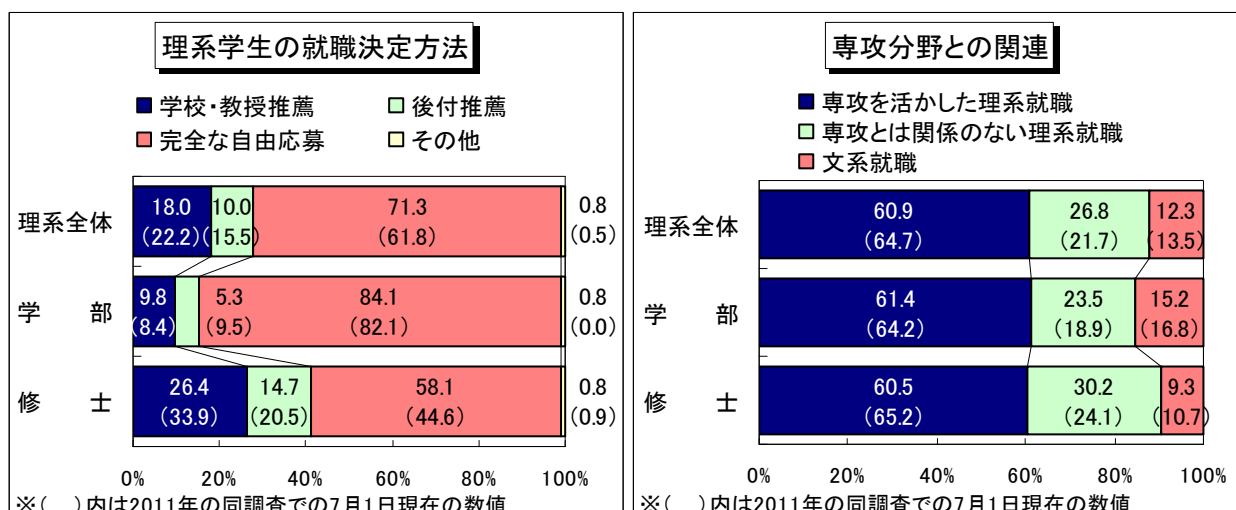
就職活動終了者のうち、出身地・親元を離れて進学している学生に、Uターン就職か否かを聞いた。Uターン就職者は19.3%で前年より5ポイント減った。一方で、「Uターン就職のための活動はしたが、最終的にUターン就職ではない」が15.5%と前年より6.1ポイント増え、日程調整や費用面など、Uターン就職の難しさを物語る。



9. 理系学生の就職決定方法

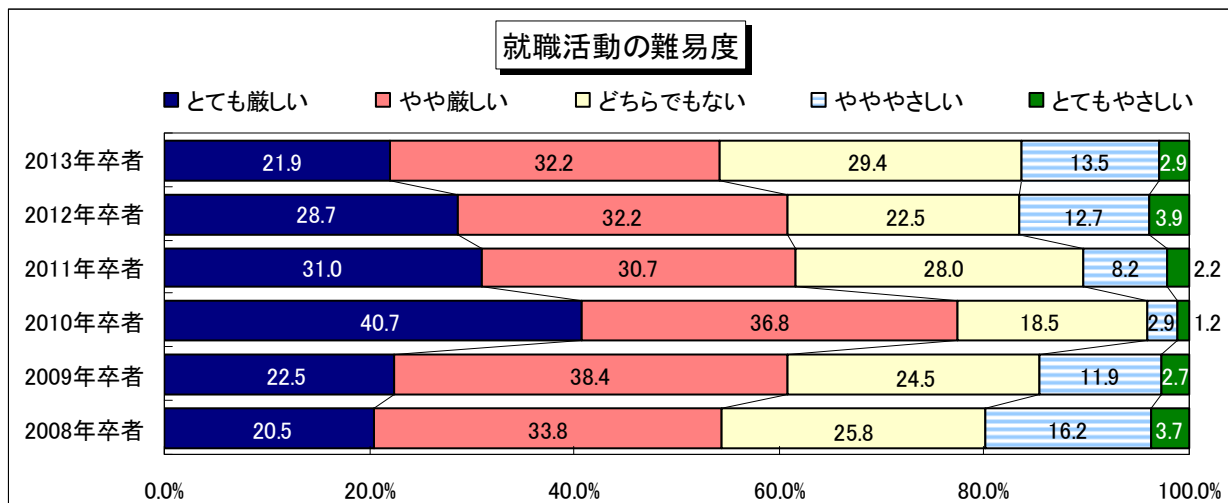
理系学生に内定へのルート聞いた。学部・修士ともに「完全な自由応募」が多数を占め、とりわけ修士で58.1%と過半数を占めており、推薦離れが進んだようだ。過去を見ても、内定率が上昇するなど就職環境が好転すると、推薦利用者は減る傾向がある。自由応募で受けて選考中あるいは内々定後に推薦状を提出する「後付推薦」は10.0%で、学部・修士とも減少した。

専攻分野との関連を重ねて聞いたところ、学部・修士で大きな違いは見られず、全体として「専攻とは関係のない理系就職」の割合が増えた。



10. 就職活動の難易度

全モニターにこれまでの自身の就職活動を振り返ってもらった。「とても厳しい」「やや厳しい」の合計が54.1%と過半数。これに対し、「やさしい」の合計は16.4%で、厳しいと感じるほうが圧倒的に多い。しかしながら、「とても厳しい」が前年の28.7%から21.9%へと6.8ポイント下がるなど、厳しさは一層緩和された。内定率の上昇とマッチした動きであり、企業の採用意欲の高さが学生の意識にも確実に影響を与えている。



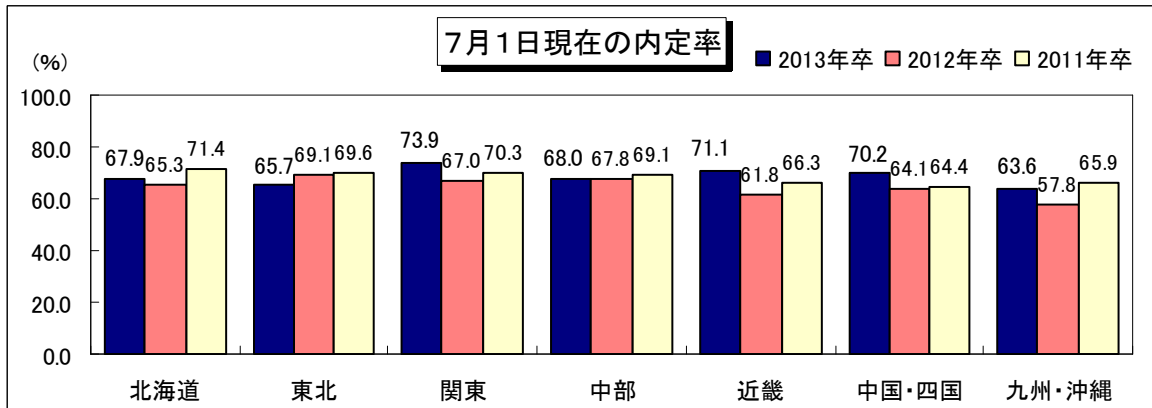
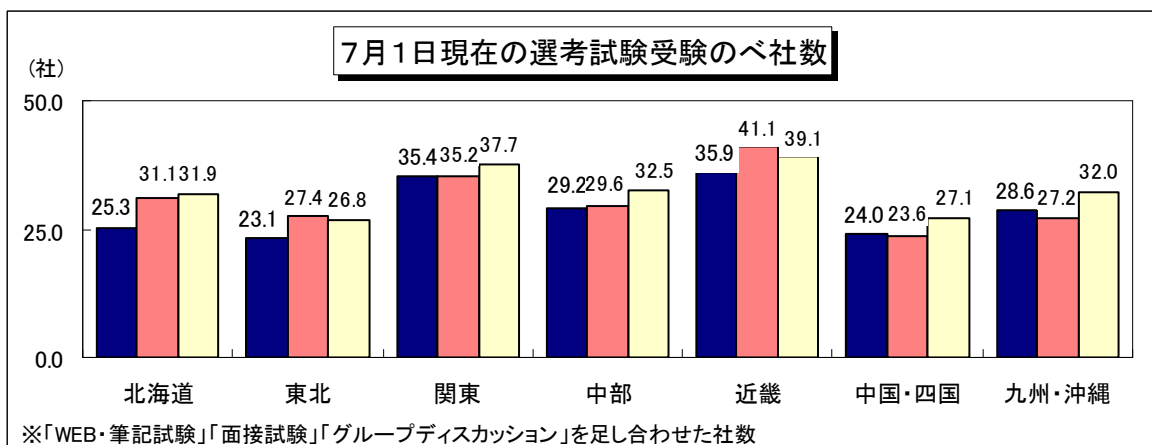
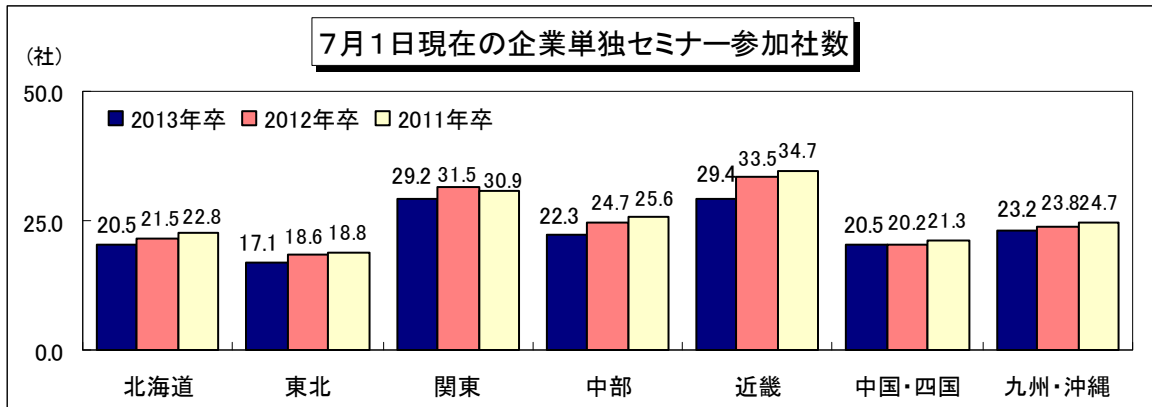
■ 「とても厳しい」「やや厳しい」

- 暑い日が続きスーツを着るのが辛くなってきた。しかし会社側から軽装でと言われても不安からスーツを着て選考に参加している。学業との両立を頑張ってきたが、辛さに耐えられなくなってきている。 <理系男子>
- 周りに内定が出始めている中、なかなか自分は内定を得られないので、少し焦りも感じています。本当にこのままどうしたら良いのやら。就活のモチベーションも下がって来て、維持するのが難しいです。 <文系男子>
- この時期になると「なぜ内定を得ていないのか」という質問をされることが多く、若干困っている。それがわかっていないから、今も就職活動を続けているのだが。 <文系女子>
- よく、中小企業を受けろという人がいるが、中小企業は採用意欲が薄く、優良中小でも数人だけの採用なのに、何百人と来ているため、大企業と倍率は変わらない。 <文系男子>
- 就活は自分に厳しく、本気で内定を取りにいかないといけないことを最近知りました。遅すぎたかもしれませんが、まだまだチャンスは転がっていると思うので、諦めず頑張っていきたいと思います。 <理系女子>
- 最終面接の段階でキープされる事が多く、時間的な部分で困ったことが多かった。 <文系男子>
- 最初のうちは「内定が一社でも決まれば就活を終える」と考えていたが、内定が決まったら決まったで欲がでて「もう少し条件の良い企業を狙おう」という気持ちになり、なかなか辞めにくい。 <文系女子>

■ 「とてもやさしい」「やややさしい」

- 理系にとっては言われているほど就活の状況は厳しくなく、特にメーカーについては引く手あまたな雰囲気さえあったので、今になって思えばもっとたくさんの企業を見ておけばよかった。 <理系男子>
- 学歴（学校名）が重要視されると思いきや、そうではなかった。企業の方は学生時代に何を考え、何に力を入れ、どのように頑張ってきたのかが一番知りたいのではないかと。 <文系女子>
- 先手必勝という感じでした。 <文系男子>
- 自分は割と楽に内々定をもらうことができたが、人によってはまだ就職活動を続けている。その違いがどこから来るのか分からないし、友人にアドバイスしようにも気が引ける。 <文系女子>
- 思ったより就職活動は厳しくなく、すんなりと決まっていた。就職活動のための活動で終わってしまっている人は、内定をもらえていない気がする。 <理系男子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】 (人)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2013年卒	56	70	498	169	235	84	88
2012年卒	49	55	433	149	204	78	83
2011年卒	42	56	414	136	178	59	85

《調査概要》

調査対象 : 2013年3月卒業予定の全国の大学4年生 (理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答数 : 1,200人 (文系男子420人、文系女子320人、理系男子343人、理系女子117人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2012年7月1日~9日
 サンプル : 日経就職ナビ2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。